

NPO 法人あったかサポート  
2017年秋季連続セミナーのご案内（全3回）

# 「人間らしい暮らしのできる 働き方改革と働く女性の条件整備に向けて」

「なぜ日本人は、働き過ぎるのだろうか」この命題は、古くて新しい課題でもあります。その昔、江戸幕府の鎖国が解かれ、訪れた欧米人が「なぜ日本人はこんなにのんびりと暮らしているのだろうか」と一様に驚いたそうです。それから大よそ150年の時を経て、この国は「世界で一番忙しく働く人々の暮らす国」になってしまいました。

その背景には「男は外で働き、女は家庭を守る」という性別役割分業によって支えられた男性中心の長時間労働や単身赴任を常態化させた働き方があります。ところが今や女性の活躍がなければ日本の労働生産性の向上は望めません。政財界は労働時間を短縮し、仕事の効率性を高め、生産年齢人口を増やす方向に政策の舵を切りました。

しかし、それだけで人間らしい暮らしを取り戻すことができるのでしょうか。私たちが片時も忘れてはならないことは、「人の生命より大切な仕事などない」という価値観です。



**第1回** 9月30日（土）午後6時15分～8時15分

テーマ：「新たな残業規制への挑戦—製造業における総労働時間対策の現実を語る」

講師：山本 賀則（寺内製作所・代表取締役社長）

モノづくりの産業は、戦後日本の発展の誇りでしたが、いま国内では減少傾向にあります。航空機など先端産業を支える中小企業にも労働時間短縮が迫られ、労使の血の滲むような取組が進められています。そこで経営者としての率直な悩みを聞くことにしました。



**第2回** 10月14日（土）午後6時15分～8時15分

テーマ：「なぜ、教育現場に長時間労働がはびこるのか、その実情と社会的背景を問う」

講師：富永 吉喜（京都自立就労サポートセンター・センター長、元京都府立盲学校長）

戦後70年を経て高校まで進学することが当たり前の時代となりました。ところで、そこで働く教員に労働基準法は適用されているのでしょうか。教科指導、生活指導、部活指導に追われる教員の暮らしに暗い影が忍び寄ってはいないだろうか。過労自殺など教員の働き方の過去と現在を学びます。



**第3回** 10月28日（土）午後6時15分～8時15分

テーマ：「年収130万円の壁は、なぜ女性の就労を妨げることになるのか」

講師：杉原 純子（京都府社会保険労務士会所属）

「働き方に中立的な社会保障制度・税制」は、働き方改革のテーマの一つです。しかし、壁はまだ動こうとはしていません。労働・社会保険の専門家である社会保険労務士が働く女性の社会進出と処遇改善の障壁となっている被扶養配偶者制度について具体例を交え解説します。

会場：ひとまち交流館京都（河原町5条下ル）  
問合せ：NPO 法人あったかサポート 電話：075-352-2640  
申込：FAX 075-352-2646  
メール attaka-support@r6.dion.ne.jp  
参加費：各回 1,000円（但し全回 申込2,000円）

参加のお申し込みは、下記に必要事項をご記入のうえ、FAX またはメールでお送り下さい。

FAX : 075-352-2646

E-mail : attaka-support@r6.dion.ne.jp

2017 年秋期連続セミナー

「人間らしい暮らしのできる働き方改革と  
働く女性の条件整備に向けて」

## 参加申込用紙

参加希望箇所に○をつけて下さい

回	第1回	第2回	第3回
日時	9月30日(土) 18:15~20:15	10月14日(土) 18:15~20:15	10月28日(土) 18:15~20:15
参加 ○印			

※ 参加費 各回 1000円 (但し、全回申込 2000円)

氏名	氏名
〒	-
住所	
TEL	
E-mail	

主催：NPO法人あったかサポート

\*ご提供いただいた個人情報は、セミナーのご案内、緊急連絡のみに利用させていただきます。